

三条市立大学

令和7年度

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」

—リテラシーレベル—

自己点検・評価報告書

1. 自己点検・評価の実施

教務委員会は、令和7年度に実施された数理・データサイエンス・AI 教育プログラムリーテラシーレベル（以下、「本プログラム」という）について、自己点検・評価を実施した。

2. 自己点検・評価の項目

本プログラムの点検・評価においては、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リーテラシーレベル）」の審査項目を基準に評価を行った。

3. 自己点検・評価結果

（1）本プログラムの履修・修得状況と学修成果

本プログラムを構成する各授業科目の状況

No.	授業科目名	条件	単位数
1	データとビジネス	必修	2
2	確率統計基礎	必修	2
3	技術者倫理	必修	2
4	プログラミング演習基礎	選択	1

・本プログラム（必修授業科目3科目）の履修者は9人で、修了者は8人となり、修得率は88.9%である。

・全学生に対する履修率が2.5%であったことから、次年度からは履修ガイダンスや学生ポータルにて、本プログラムの必要性和有効性を複数回周知し、多くの学生の履修を啓発することで、履修率の向上を図る予定である。

（2）学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、後輩等他の学生への推奨度

授業評価アンケートにおける本プログラムを構成する各授業科目の回答結果は下表のとおりで、全4授業科目のうち3授業科目は全授業科目の評価値平均を上回っていることから、学生の理解度は高いと考えている。「データとビジネス」だけが、全授業科目の平均評価値を下回っているが、回答者2人の評価値平均をみると、1人が4.83であることに對して、もう一人は2.75であったことから評価のバラツキが極めて大きい結果になったことによるものである。低評価の学生についても「到達目標の達成」、「板書の文字やスライドの見やすさ」、「授業の進度」については最高評価の「5」と回答している。評価の低かった項目について、改善の手がかりと必要性を探っていくこととしている。

また、教務委員会にて授業評価アンケートの回答率を上げるための対応を検討することとしている。

授業科目	評価値 (5段階評価)	回答者数
データとビジネス	3.8	2
確率統計基礎	4.2	16
技術者倫理	4.4	46
プログラミング演習基礎	4.6	97
(参考) 全授業科目の平均	4.2	2,408

また、後輩等他の学生への推奨度については、授業評価アンケートの自由記述欄から収集した感想や意見を教務委員会にて確認し、必要に応じて学生へ公開することで本プログラムへの理解を深める。

(参考) 令和7年度 授業評価アンケート

○ 質問項目

1. 授業（演習）の内容は、よく計画・構成されたものでしたか。
2. 授業（演習）は、皆さんの理解を確認し、質問や意見に対し受け答えができるよう配慮していましたか。
3. シラバスはこの授業を学修するうえで役に立ちましたか。
4. 授業（演習）の進度は適切でしたか。
5. 授業（演習）の難易度は適切でしたか。
6. 板書の文字やスライドは見やすかったですか。
7. 教室や視聴覚機器などの設備環境は適切でしたか。
8. 授業（演習）の到達目標を達成できましたか。
9. 授業（演習）に関連する自主的な学習を行いましたか。
10. この授業（演習）はあなたの学修に役立ちましたか。
11. この授業（演習）を受けて、新しい知識や技術の修得などレベルアップを実感できましたか。
12. この授業（演習）をもとに、さらに専門的な分野を学びたいと思いましたか。

○ 回答項目（5段階評価）

- 5点 非常にそう思う
- 4点 そう思う
- 3点 どちらかといえばそう思う
- 2点 どちらかといえばそう思わない
- 1点 そう思わない

○ 自由記述項目

1. この授業（演習）についての意見（良かった点、改善してほしい点等）を自由にお書きください。
2. この授業（演習）を受講する後輩に向けて一言お書きください。

（３）全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

- ・プログラムを構成する授業科目の履修・修得状況を教務委員会で共有・点検し、必要があれば改善していく。
- ・令和９年度に全学生の 60%以上が履修・修得できるよう、履修ガイダンスや学生ポータルにて、本プログラムの必要性和有効性を周知する。
- ・数理・データサイエンス・AI を活用して課題を解決するための実践的な能力を育成するため、応用基礎レベル認定を視野に、プログラムの体系化・高度化を検討する。

（４）教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価及び産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

- ・令和７年３月に第一期生を輩出したばかりで、企業等からの評価は定まっていないが、就職担当部署と連携し、就職先企業に対してのヒアリングなどを通じて、本教育プログラムを修了した卒業生の企業における活用状況や評価を把握できるよう、教務委員会で検討していく
- ・「データとビジネス」や「技術者倫理」を担当する教員は、実務家教員であることから、産業界からの視点を含めた教育内容となっている。

（５）数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること、及び、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

- ・「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」においては、データサイエンス、AI で学んだ知識・技術が、身近な例やビジネスにどのように活かされているかを説明している。
- ・「分かりやすい」については、授業全体をデザインする文書という観点からシラバスを点検するとともに、数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムの動向を把握し、授業の改善を図る予定としている。